

特集《2025 大阪・関西万博（第2弾）》

関西大学における大阪・ 関西万博への取り組みについて

関西大学 大阪・関西万博推進プロジェクト事務局

大学本部長 藪田 和広

学長室次長 植田 光雄

要 約

関西大学は、「学の実化」を学是に掲げ、学理と実践の調和を重視し、教育、研究、社会連携活動を展開している。現在、関西大学では大阪・関西万博を大学の教育・研究分野の成果を発信できる機会と捉え、学内の推進プロジェクトが中心となり、万博に向けた様々な取り組みを推進している。

大阪ヘルスケアパビリオンでの「リボーンチャレンジ」ではイノベーション創生センターにおける産学官連携・共同研究拠点を軸とした中小企業やスタートアップ等と連携し、共同研究で生まれた発明を権利化、一部社会実装を行い、大学の研究力を発信する予定である。

また、大学として「TEAM EXPO2025」共創パートナーに登録し、教職員、学生たちが取り組む共創チャレンジを支援している。関西大学が重視する「考動力」「革新力」をもった人材育成につながる契機とすべく、学生団体「関大万博部」の学生をはじめ多くの学生、生徒たちに貴重な体験機会を提供することを目指し、大阪・関西万博に関連する様々な取り組みを行っている。

目次

1. はじめに
2. 大阪・関西万博プロジェクト体制
 2. 1 プロジェクトの設立と役割
 2. 2 プロジェクト内の作業部会とその取り組み
3. これまでに展開してきた関連イベント
4. まとめ

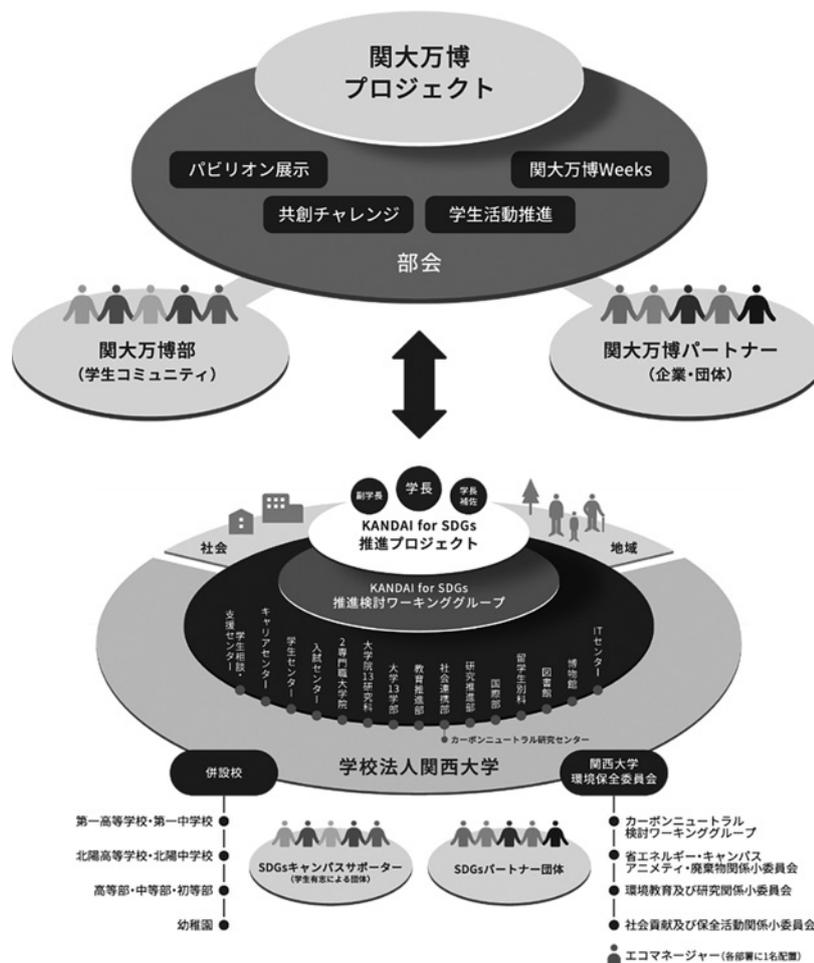
1. はじめに

関西大学は、1886年（明治19年）の関西法律学校を起源として、1922（大正11）年には千里山に学舎を新設し、大学への昇格を果たした。当時の総理事兼学長山岡順太郎は、新しい大学の理念として「学の実化（じつげ）⁽¹⁾」（学理と実際との調和）を提唱し、それ以降、関西大学の学是として今日まで受け継がれ、現在では、13学部13研究科2専門職大学院を有する規模の総合大学となっている（2025年4月には14番目の学部としてビジネスデータサイエンス学部を開設予定）。なお、千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミュージックキャンパス、堺キャンパス、梅田キャンパス、吹田みらいキャンパスとすべてのキャンパスが大阪府下に所在しており、学生数は約3万人にのぼる。このように大阪に生まれ、大阪とともに成長してきた大学であるからこそステークホルダーとともに大阪で開催される大阪・関西万博の機運を盛り上げたいと考えている。また、この大阪・関西万博は、本学が重視している「自ら考え、行動できる力『考動力』と社会を変革できる力『革新力』を兼ね備えた人材」の育成に寄与できる機会であるとともに、約51万人の卒業生とのエンゲージメントを創出する機会でもあると捉え、学園全体で大阪・関西万博に関連する取り組みを推進しているところである。

2. 大阪・関西万博プロジェクト体制

2.1 プロジェクトの設立と役割

本プロジェクトは「大阪・関西万博において、本学が大阪にある大学としての存在感を示すとともに、学生・生徒等にとってかけがえのない経験を提供するために、諸施策を検討し実行する」ことを任務として、2022年6月、理事長及び学長のもとに設置された。副学長を座長とし、部局を横断したメンバーで構成されたプロジェクトの運営は学長室学長課が担っている。世界中が注目する大阪・関西万博は、大学の教育・研究分野の成果を発信できる場であり、学園に所属するすべての学生・生徒・児童たちにとって自らの将来を考えるきっかけとなる絶好の機会と捉え、後述するプロジェクトのもとに設置された各部会において様々な関わり方を模索している。



2.2 プロジェクト内の作業部会とその取り組み

(1) パビリオン展示部会

本部会の役割は、大阪ヘルスケアパビリオンにおける「リボンチャレンジ」にかかる企画・運営ならびに、出展する中小企業・スタートアップとの各種調整を行うことである。大阪ヘルスケアパビリオン内に設置される「リボンチャレンジ」は大阪の中小企業・スタートアップの技術力や魅力及び万博に向けて取り組む新技術開発などの象徴的な成果や活躍を発信する場として設計されている。

「学の実化⁽¹⁾」を学是とする関西大学は、社会連携部のもとに、産学官連携センター、知財センター、地域連携センター、高大連携センター、イノベーション創生センター、医工薬連環科学教育研究機構、カーボンニュートラル研究センターを設置し、多様な本学の知財資源・人材などを活用し、総合大学の「知の創造拠点」として「文理融合」型の社会連携を目指してきた。

その中でも2016年4月に設置されたイノベーション創生センターは国際競争力の向上に資する革新的なイノベーションを創出すべく、文理融合により、インキュベーション機能、起業（ベンチャー）支援機能を兼ね備えた

産学官連携・共同研究拠点として、企業を誘致し、研究者・技術者との共同研究等を通して、創造的かつ革新的な研究成果を持続的に社会に発信する機能を果たしている。

知財センターは、本学の研究者による研究成果や共同研究等を通して生まれた創造的かつ革新的な発明の権利化を行い、イノベーション創生センターの起業（ベンチャー）支援とも連携している。

このような取り組みから本学では、「リボーンチャレンジ」を大学の研究力や産学連携の取り組みを世界に発信できる貴重な機会と捉え、2025年8月5日～11日までの1週間、本学が実施主体となり、関西大学のスタートアップ企業をはじめとする9社と連携し、大学×企業によるイノベーションの可能性を感じられる展示を目指して準備を進めているところである。

以下、関西大学のリボーンチャレンジに出展する企業とその出展内容について、関大万博特設ウェブサイトに掲載している概要を中心に紹介する。

1) 大阪冶金興業株式会社

事業内容は主に①金属熱処理加工、②金属粉末射出形成法（MIM）による小型精密部品の製造、③金属3Dプリンターによる部品製造及び医療機器の製造・販売である。

産学連携の研究成果として、「本物に引けを取らない透光性の高い人口宝石」を展示予定。次世代加熱技術「ミリ波照射」を使用し、短時間・省エネルギーで人工ルビー（本物と同じ結晶構造）の製造が可能となる。「茶道具」を展示し、「日本の和」と「次世代技術」の融合を表現する予定。

また、極低温に強い先端材料である「関大合金シリコロイ*」を活用した技術を展示。従来の1/100の製造過程により省エネを実現し、水素社会・カーボンニュートラル社会の実現に貢献する。

*関大合金シリコロイ：1958年の関西大学工学部の創立時に、日本製鋼所（北海道室蘭）の研究所長から転じられた太田鶏一先生が開発された関大発合金

2) 株式会社アイ・エレクトロライト

事業内容は主に①イオン液体を用いるリチウムイオン電池などの電気化学デバイスの実用化、②天然高分子材料を利用した電池用部材の販売である。

様々な用途で使用されるリチウムイオン二次電池は、製造現場での環境改善、CO₂削減の課題、リサイクルの問題、高温など過酷環境での使用制限など、多くの課題を抱えている。そこで、電極製造工程で有機溶媒不使用の体に無害な水系プロセス技術と、燃えない・揮発しない電解液を使った電池技術によって、課題解決に向けた未来への一歩を提示する。

■関大発ベンチャー企業として、イノベーション創生センターより支援

■関西大学と共同出願した特許出願の公開番号

・特開 2023-180890

※その他、特許出願中案件、及び、複数の特許権を保有

3) 株式会社アックスヤマザキ

事業内容はミシン及び関連商品の製造・販売であり、家庭用ミシン一筋で培ってきた技術を活かし、REBORN実現に向けこれからの地球環境を考え一人ひとりが取り組めるような「モノの価値」を見直す体験ができる展示を目指す。この展示を通じて、モノを使い捨てるのではなく、「価値を上げる」「再生させる」という新たな価値観や文化を創造する。

4) 株式会社イノカ

主な事業は①人工生態系の設計に基づく水槽設置・環境移送を行うためのAI・IoT開発事業、②環境移送技術を活用した教育事業と海洋研究プラットフォーム事業。

水質、水温・光など、各種パラメーターの高精度調整が可能な水槽を設置するとともに、医療デバイスに多用されているチタンを活用したサンゴの増殖技術および実験の様子を、与論島の海底とライブで繋ぎ、展示する予定。再生医療技術をもとに生態系の土台をなす海洋環境にアプローチすることで、「いのち」や「健康」の観点から新たな価値創造を提案する。

■関大発ベンチャー企業として、イノベーション創生センターより支援

5) 株式会社 KUREi

関西大学化学生命工学部の天然素材工学研究室から生まれたシーズを事業化することを目的に作られた大学ベンチャー。寒冷地のコンクリート構造物の表面に近い内部では、凍結による水から氷への変化での体積膨張がおき、それによりその構造物はひどい損傷が起きている。本展示では、食品加工副産物の未利用資源より製造した天然物エキスに、コンクリート構造物の凍害予防効果があることを世界で初めて実証した新技術を披露する。

■関大発ベンチャー企業として、イノベーション創生センターより支援

■関西大学等と共有する特許権の特許番号

・特許第 7319613 号、特許第 7011117 号、特許第 6963225 号

※その他、特許出願中案件、及び複数の特許権を保有

6) 株式会社ゴエンジン

主な事業は映像制作・ブランディング・プロモーション。大阪・関西が持つ食の魅力や多様性を世界へ広く発信する予定。具体的には世界の約4分の1を占めるムスリムについて、飲食店とムスリムを繋ぐデジタルプラットフォーム『Touris Muslim』を紹介。宗教的教えから飲食できるものが限られる中、日本ではムスリムにとって必要な情報発信はほとんどないため、この『Touris Muslim』では食い倒れの街大阪、関西から日本の食文化の魅力を広く発信する。

7) Cranebio 株式会社

主な事業内容は①デバイスフリーの感染症遺伝子検査キットの開発、②女性向けウェアラブル健康管理キットの開発、③迅速環境検査キットの開発であり、このたびナノメートルレベルの構造体を自由に作製できる最先端技術「DNA オリガミ」を活用し、ウイルス・菌のいる時にのみ発光するナノロボットを開発。従来の PCR 法や培養法に比べて、試薬を混ぜるだけでよく、人が飲む水について危険な菌を 1、2 時間で測定することができるため、発展途上国に必要となる技術である。

■関西大学と共有する特許権の特許番号

・特許第 7336781 号 等

※その他、特許出願中案件あり

8) NanoSpike

薬剤を用いない物理的な作用に基づく抗微生物材料「ナノスパイク」を研究している関大理工系研究室である。セミの翅の表面は目に見えないナノレベルの突起物（100nm=0.0001mm）で覆われており、この構造により細菌やウイルスを物理的に殺傷することができる。この抗菌・抗ウイルスの特徴を活用し、人工的にナノ構造体「ナノスパイク」を作製することで、薬剤を使わず半永久的に抗微生物作用を持続する、未来の材料を提示する。

■関大発ベンチャー企業として、イノベーション創生センターより支援

■関西大学と共有する特許権の特許番号

※特許出願中案件あり

9) Virtual Motorsport Lab Inc.

モータースポーツ型の自動運転シミュレータをエンジニアに提供し、デジタル空間における自動運転レースに係る AI 技術を学ぶ場を提供している。ブース来場者に対して、未来のモビリティ社会を支える技術革新と人材育成を目的に、デジタル空間上で自動運転レース世界大会を開催する予定。この大会には、世界各国から集まったエンジニアが自らの技術力を競い合い、参加者や来場者は、自動運転レーシングカーの開発体験とイベント観戦を通じて、先端テクノロジーを体感することができる。

以上が関西大学のリボンチャレンジに参加する中小企業・スタートアップ企業が計画している展示内容となるが、現在それらの技術や成果を国内外のあらゆる世代の来場者にわかりやすく伝えるべく、展示方法等について検討を重ねているところである。それらの内容については随時関西大学の万博特設ウェブサイト (<https://www.kansai-u.ac.jp/expo/>) にて情報を更新していく予定である。

(2) 共創チャレンジ部会

本部会の役割は、TEAM EXPO プログラム関連イベントの企画・運営ならびに学内共創チャレンジの登録推進である。

関西大学では他大学に先駆けて、2021年2月に「TEAM EXPO2025」共創パートナーに参画することを決定した。この「TEAM EXPO2025」は多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラムである。「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するために、多様なセクターが主体となり、理想としたい未来社会を共に創り上げるムーブメントを創出すべく、大規模総合大学の強みを生かし、すでに30を超える共創チャレンジを登録・支援しており、その件数は大学としてトップクラスであると自負している(2024年10月時点)。

なお、関西大学が関連する共創チャレンジの数々についてはTEAM EXPO2025の公式ウェブサイト (<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge>) からフリーワードに「関西大学」を入力して検索のうえ、参照願いたい。

(3) 学生活動推進部会

本部会の役割は、関大万博部の統括(各種活動支援およびイベントの企画・運営)ならびにボランティア派遣をはじめとする、学生の万博への参画機会の創出である。2024年4月に学内で開催した万博ボランティア説明会には実に600名を超える申し込みがあった。博覧会協会へのボランティアの申し込みは約900名に上ったことから大学生(高校生を含む)の万博に対する関心の高さを実感しており、このような学生たちに対して、万博に関わる機会を創出する責任を感じているところである。

また、2023年5月に立ち上がったプロジェクト公認の学生団体「関大万博部」は、現在約140名という規模で様々なプロジェクトに取り組んでいる。ここではその中から主なプロジェクトについて紹介したい。

1) 非常食アレンジ弁当で防災啓発! / 未来の私たちへプロジェクト

賞味期限が迫っている非常食をそのまま食べるのではなく、ひと手間加えたアレンジ料理を創作し、見栄えや食べやすさを意識した小鉢弁当を作ることで非常食のイメージを一新し、「防災意識の向上」と「非常食の普及」を目指して活動している。これまでも地域の様々なイベントでアレンジ弁当をたくさんの方々に振る舞い、そこでいただいた感想などを参考に日々メニューをブラッシュアップしている。

2) 絵文字を活用して言語の壁をぶち壊す! / エモジケーションプロジェクト

2025年の万博会場で生じるであろう言語の壁を乗り越えるため、日本発祥の絵文字だけを使ったコミュニケーションツール“エモジケーション”を世界に広めるべく、活動。誰もが誰とでも気軽にコミュニケーションできる未来を作り、相手の想いを汲み取ろうとすることで、相手のことを考える時間が増え、思いやりにあふれる未来にしたいと考え、日々活動している。

3) オリジナルクラフトコーラ&ビールで乾杯！／關杯プロジェクト

大学オリジナルコーラ&ビールの開発を通じて、環境保全や地域活性、人や企業とのパートナーシップなどの様々な文脈からSDGsを推進する取り組みである。「そだてる」「つくる」「つながる」という3つのアプローチで、学生、教職員、校友（卒業生）、保護者、地域住民、企業・自治体など様々なステークホルダーとの“関わりしろ”を創出する。クラフトビールについては3月に苗の植え付けイベントを開催し、学内でホップを栽培。その後、学生たちが自ら収穫して、醸造作業、ラベルデザイン制作などに参画し、乾杯イベントでは販売にも協力。クラフトコーラについては、地域の特産品を原材料に加えるなど試行錯誤しながらレシピを開発した。クラフトビールとともに本学の新たなお土産品として販売する予定となっている。

4) 学食でオリジナル万博メニューを！／関大 EXPO 食堂・KUDF プロジェクト

「誰一人取り残さない食」を人と人をつなげるツールとして展開するチャレンジ。ヴィーガンや宗教の関係で食べられない食がある人、飢餓で苦しむ人など、世界中には多様な「食」があることを、関大万博部オリジナルメニューを考案・提供することで人々の相互理解を促す。日本では、高齢者や障がいのある人々に向けた配慮がなされた食品や飲料が「ユニバーサルデザインフード」と日本介護食食品協議会により定義されている。この「ユニバーサルデザインフード」の概念を、万博を機に世界基準へと昇華させ、食への興味から社会問題や異文化理解につなげ、全ての人に分かり合う持続可能で平和な未来を作ること为目标として活動している。

ここで紹介した取り組みは一部であり、学生・生徒等にとってかけがえのない経験を提供するというプロジェクトの目的を果たすため、万博会場内における各種催事イベントへの出展を企画している。その他の取り組みについては、関大万博特設ウェブサイト (<https://www.kansai-u.ac.jp/expo/>) を参照願いたい。

また、関大万博部が関与している共創チャレンジに関連するイベントでの実績に関しては、後述の「3. これまでに展開してきた関連イベント」を参照願いたい。

(4) 関大万博 Weeks 部会

本部会の役割は、「関大 2025 万博 Weeks」をはじめとする学内万博関連イベントの企画立案および運営ならびに博覧会協会主催の催事イベントの企画および運営である。今年度においてもすでに機運醸成のためのプレイベントとして、様々なイベントを行っている。

例えば、3月31日に行われた新入生歓迎の集いイベントでは、2025年日本国際博覧会協会によるブースも設置され、公式キャラクターであるミャクミャクと一緒に、関大万博部の学生らが“万博熱”を新入生らにアピールした。また、吹田みらいキャンパスで実施している「関大みらい〜ねフェスタ」では、地域の子ども向けに塗り絵企画を実施したり、地域の方に非常食弁当を振る舞ったりして関大万博部の取り組みを展開している。8月に実施されたオープンキャンパスではSDGs・万博コーナーを設置し、受験生に万博クイズに挑戦してもらうなど様々なステークホルダーとともに万博の機運醸成に取り組んでいる。今後はSDGsパートナー企業とともにSDGs・万博Weeksにおいて、さらなる取り組みを展開する予定である。

3. これまでに展開してきた関連イベント

(1) 万博“ほぼ”500日前イベント「EXPO FES in 吹田」

2023年11月12日に「Road to 2025!! TEAM EXPO FES in 吹田」(主催：TEAM EXPO FES 実行委員会 (FM802、(株) ソニー・ミュージックエンタテインメント、(株) 三菱総合研究所)、共催：吹田市) が千里山キャンパスで開催された。当日、関大万博部のメンバーが「非常食を活用したSDGs 弁当プロジェクト」のアレンジレシピの試食や、世界共通の愛されドリンクの開発をめざす「関大クラフトコーラプロジェクト」(現「關杯プロジェクト」)の市場調査などのブース出展を行うなど、進み出した学生たちの挑戦の一部を披露した。



(2) グローバルフェスティバル「Pre Expo-in KU」

2023年11月29日に千里山キャンパスにて、関大万博部の学生らが中心となって、留学生によるグローバルフェスティバル「Pre Expo-in KU」を実施した。本イベントは、2025年大阪・関西万博で「交流活性化によるイノベーション創出」と「豊かな日本文化の発信のチャンス」を実現するため、世界各国の学生達がゲームを通して文化を発信するもので、関西大学における万博の機運向上に寄与した。



(3) 「まちFUNまつり in 関西大学 2023」

2023年12月10日に千里山キャンパスで行われた地域向けお祭りイベント「まちFUNまつり in 関西大学 2023」(主催：まちFUNまつり in 関西大学 2023 実行委員会、協力：NPO 法人関西大学カイザーズクラブ、ママふあん関西、ミズノ株式会社、吹田市千二地区連合自治会)に、「関大万博ブース」を出展し、キャンパス内各所で地域住民の方々約6,500人の来場者に向けて、関大万博企画を展開した。具体的には「関大万博ブース」で、バーチャルレーシングカーを使ったタイムアタックやプログラミング、毛糸ミシン体験、パーソナルカラー診断など、大阪の中小・スタートアップ企業の魅力を体感できる産学連携のイベントを実施する一方、関大万博部による企画も実施。絵文字によるコミュニケーション方法を取り入れた「謎解きスタンプラリー」や、非常食アレンジ弁当の試食企画、関大クラフトコーラ製作のための市場調査などを行った。



(4) 大阪・関西万博「未来の都市」展示に向けた KDDI ワークショップ

2023年12月20日、千里山キャンパスにて、KDDI株式会社との万博連携ワークショップ（運営：KDDI DIGITAL GATE）を開催し、関大万博部やSDGsキャンパスサポーターの学生が参加した。本ワークショップは、大阪・関西万博の未来社会ショーケース事業「フューチャーライフ万博・未来の都市」のプラチナパートナーであるKDDI株式会社が主催するもので、パビリオンでの展示内容を検討するための意見収集の一環として、関西大学が協力。当日は学生たちが現状の課題を出し合い、未来への想いについて意見を交換し、未来社会を考える機会となった。



(5) 大阪公立大学×関西大学連携講座「2025年からはじまる未来に向けて～大阪・関西のグランドデザイン」

2024年3月9日に大阪公立大学I-site なんばで開催された第20回大阪公立大学×関西大学事業連携公開講座において、関大万博部の学生がポスターセッションに登壇した。第一部では大阪公立大学研究推進機構の橋爪紳也教授が「2025年からはじまる未来に向けて～大阪・関西のグランドデザイン」をテーマに講演。今回の万博誘致に尽力した同氏の経験を踏まえ、1970年大阪万博や2020年ドバイ万博を振り返りながら、国際的な大型イベントが果たす役割や意義が論じられた。続いて第二部では、関西大学総合情報学部の岡田朋之教授が「万博がひらくDX～デジタルメディアと万博が呈示する未来のイメージ」をテーマに講演。過去の万博で披露され、後に社会実装されたメディアテクノロジーの歴史を紹介しながら、大阪・関西万博で期待される将来のデジタル社会の具体像が示された。両大学学生によるポスターセッションは第一部と第二部の間に開催され、関大万博部による4つのプロジェクトの2023年度活動実績を披露。一般来場者からは多くの質問が投げかけられ、これからの関大万博部の活動を一層本格化させるにあたって、貴重な意見交換の時間となった。



(6) 5大学共同「学生×ウェルビーイングプレ会議」

2024年2月15日および3月12日に関西大学梅田キャンパスにて「TEAM EXPO2025」テーマセッションに向けた活動として、大学の垣根を越えた共創活動が始動した。本活動は、5大学（関西大学、京都光華女子大学、甲南女子大学、武庫川女子大学、森ノ宮医療大学）の学生が企画し、「健康・ウェルビーイング」をテーマとする共創チャレンジの創出を目指すものであり、ワークショップには、約40人（本学からは7人）の学生が参加した。

一人ひとりが思い描く理想の未来社会のイメージを語り合いながら、現状の社会課題などについて意見交換を行い、「共創」に向けた第一歩を踏み出した。

また、2024年5月30日には、森ノ宮医療大学において、大阪・関西万博／共創イベント「TEAM EXPO2025」テーマセッション（テーマ：健康・ウェルビーイング）を開催した。

テーマセッションとは、博覧会協会公式の取り組みで、テーマごとに「TEAM EXPO2025」プログラム参加者が集まり作り上げるイベントのこと。5大学では、昨年度から大学の垣根を越えた共創活動として、TEAM EXPO パビリオンでの発表を目指し、「健康・ウェルビーイング」をテーマにして、共創チャレンジの創出・推進に取り組んでいる。



（7）「まちごと万博」

2024年4月12日に開催された「まちごと万博」に、関大万博部関係プロジェクトが参加した。「まちごと万博」とは、「自分のまちを、もうひとつの万博会場に」をコンセプトに、大阪商工会議所を中心に構成される大阪まちごと万博共創プラットフォームが主催する企画で2025年大阪・関西万博の期間中、大阪の商店街や飲食店などをパビリオンのように位置づけ、観光客に巡ってもらうという取り組みである。今回はそのモデルケースとして、万博のプロデューサーやメディアを対象にしたバスツアーが行われ、関大万博部の学生たちは開発を進めるオリジナルコーラを中津商店街の一角で振る舞った。



（8）「EXPO TRAIN 阪急号」

2024年4月13日に行われた阪急電鉄の万博特別ダイヤ「EXPO TRAIN 阪急号」に、関大万博部が添乗員として乗車し、1970年代車両の一角で「非常食弁当」と「クラフトコーラ」、「エモジケーション」プロジェクトのブースを出展した。非常食弁当プロジェクトでは、昨年実施した試食イベントで好評を得た非常食のアレンジレシピを添えて、関西大学が連携するWeAct（公益社団法人日本非常食推進機構）から提供を受けた賞味期限の迫った非常食を乗客に配付。防災意識の向上に向けて、備蓄食料の計画運用やフードロスにもつながるローリングストックの啓発活動を実施した。また、関係プロジェクトでは、クラフトコーラの素となるスパイスづくり企画を出展し、「世界中で万人から愛されるコーラというアイテムを通じてコミュニケーションの輪を広げる」という同プロ

プロジェクトの目的を、参加者とともに楽しんだ。さらに、言語の壁を乗り越えるためのツールとして絵文字を活用したコミュニケーション方法を開発中のエモジケーションプロジェクトでは、「エモジケーション」による自己紹介カードづくり企画を出展し、日本発祥の文化である絵文字に秘められたグローバルな可能性を、乗客らに体験してもらった。



(9) 大阪の新土産『大阪ええ YOKAN』と関大万博部がコラボ

2024年4月24日から30日の期間限定で、大丸梅田店地下1階「お菓子なパレード」にて、関大万博部が考案した新作ようかんが販売された。

本企画は、大阪・関西万博を機に「新しい大阪土産」を考案すべく、関西の和洋菓子店10店舗と高校1校によって発足された共創プロジェクト『大阪ええ YOKAN』と関大万博部がコラボしたもの。同プロジェクトの人気シリーズ『パビリオン』（キューブ型ようかん）の新作発売にあたり、関大万博部の学生が考案したアイデアのうち、「夢洲かん」「個性たのしもかん」「イシガキかん」の3種類が採用された。



(10) 関大みらい～ねフェスタ

2023年10月に新たに誕生した「吹田みらいキャンパス」の開設記念イベント『関大みらい～ねフェスタ』に、関大万博部が参加し、機運醸成に寄与した。

2024年5月12日は「関大ウォークフェスタ～みらいへの冒険～」と題して、最寄り駅のJR岸辺駅から徒歩で地域の魅力施設を徒歩で巡りながらキャンパスに向かうという地域住民を対象としたウォークツアー企画。関大万博部からは非常食弁当を提供する未来の私たちへプロジェクトとエモジケーションプロジェクトがブース出展し、地域の方々との交流を図った。

また、2024年7月6日には、「あつまれみらいっ子！笑顔の花咲く関大体験」と題して、地域の子ども向け企画が実施され、関大万博部は、ダイバーシティをテーマにしたオリジナル塗り絵を用意し、100人以上の子どもたちに塗り絵を楽しんでもらった。



(11) 第39回吹田産業フェア「大阪・関西万博記念イベント」

2024年5月25日、吹田メイシアターで第39回吹田産業フェア大阪・関西万博記念イベントが開催された。吹田産業フェアとは、市内の産業を広く紹介し、地元産業と市民の関わりについて意識を高めることを目的としたイベントであり、今回は大阪・関西万博の開催を記念して、アジア・日本で最初に開催した国際博覧会である「EXPO'70パネル展」や、ららぽーとEXPOCITY「万博食堂」による「あの頃の懐かしメニュー」の提供などが行われた。パネルディスカッション「いのちの繋がり これからの共生社会を考える」には、関大万博部が登壇し、市内の大学生と万博テーマ事業プロデューサーである河森正治氏が、それぞれの考える理想の「共生社会」について意見交換を行った。

(12) 「電力館」を出展する電気事業連合会との包括連携協定

関西大学と電気事業連合会は、電気事業連合会が出展するパビリオン「電力館 可能性のタマゴたち」の展示や運営、共催イベント等で相互に連携・協力を図ることを目的に、2025年大阪・関西万博に向けた包括連携協定を2024年4月15日に締結した。大阪・関西万博に向けては、本学が有する研究リソースを電力館の運営に役立てるとともに、催事スペースを活用した共催イベントの企画等を通じて、エネルギーやいのち輝く未来について「ワクワクする体験」を提供できるよう、連携して取り組んでいる。

その一環として、2024年8月5日および9月12日、千里山キャンパスにて、電気事業連合会との連携ワークショップを開催し、関大万博部の学生が「電力館」の屋外スペースの活用方法について意見提言を行った。今後も継続して電力館の運営に向けて取り組む予定である。



(13) 「TEAM EXPO2025」プログラム／共創チャレンジ発表会 in 関西大学

2024年9月10日、梅田キャンパスで「大阪・関西万博「TEAM EXPO2025」プログラム／共創チャレンジ発表会 in 関西大学」を実施し、関大万博部など12のプロジェクトチームが進行中の共創チャレンジの活動概要や進捗を発表した。本イベントは本学が定期的に開催する「SDGs パートナー交流会」も兼ねて実施し、約100名の企業担当者らが聴講者として参加した。当日は日本国際博覧会協会の担当者もお招きし、各チャレンジが夢洲会場の

「TEAM EXPO パビリオン」への出展基準に達しているかどうかの視点で意見を頂戴した。パートナー企業相互の連携のみならず、学生・企業間の意見交流も活発に繰り広げられた。

会場では、2025年の夢洲会場への出展を見据えたブース展および各チーム5分のプレゼンテーションを実施。関大万博部からは「非常食アレンジレシピで防災啓発」や「クラフトコーラ&ビールで乾杯」、「絵文字で世界共通コミュニケーション」など8チームが発表したほか、「健康・ヘルスケア」をテーマにした活動を展開する5大学（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・森ノ宮医療大学）共創プロジェクトから2チーム、マイボトル推進活動に取り組む「関大マイボトルアンバサダー」チーム、ドローンやVRを駆使して双方向型の防災・減災活動を展開する社会安全学部公認団体「KANDAI DPE」、事務職員を中心にLGBTQ+の理解推進および学内の環境整備に取り組む「関大アライ会」など、多様な挑戦が披露された。



4. まとめ

関西大学は創立130周年となった2016年に今後20年を見据えた「Kandai Vision 150」を策定した。そのビジョンには「未来を問い、そして挑戦する」というメッセージが込められ、全体の将来像として「多様性の時代を、関西大学はいかに生き抜き、先導すべきか。」という問いを設定している。さらに各分野にサブテーマを設定しており、例えば、教育では「変化を続ける社会に、関西大学はいかなる人材を送り出すべきか」、研究では「学の真価を問われる時代に、関西大学はどんな知を提示できるか。」という問いを投げかけている。我々構成員は常にこれらのテーマを羅針盤としつつ、「この伝統を、超える未来を⁽²⁾。」創るべく、日々様々な挑戦を続けているところであるが、大阪・関西万博における様々な取り組みはそれらの問いに応える一つの大きな機会でもあると考えている。

また、大阪・関西万博での体験がこれからの社会を担う学生たちにとって、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実践する場となり、そしてその体験が人生の大きなターニングポイントとなって、「考動力」と「革新力」あふれる社会をリードする人材へと成長できる機会となることを願っている。

(注)

- (1)「学の実化」…本学が大学へ昇格した1922年に当時の総理事であった山岡順太郎が提唱したもの。大学は教育研究に実社会の知識や経験を取り入れ、社会は大学の学術研究の成果を取り入れることによって、『学理と実際の調和』を求める考え方。
- (2)「この伝統を、超える未来を。」…創立130周年記念事業のキャッチフレーズ。

(参考文献)

- 関西大学。“Kandai Vision 150”。<https://www.kansai-u.ac.jp/kikaku/ku-keirinen/>
関西大学。“関大万博特設ウェブサイト”。<https://www.kansai-u.ac.jp/expo/>

(原稿受領 2024.10.16)